

観世 清和…能楽 二十六世観世宗家

室町時代に「能」を大成させた観阿弥、二世・世阿弥、三世・音阿弥の子孫。約 700 年の伝統を受け継ぐ二十六世観世宗家。国内はもとより、フランス、アメリカ、インド、タイ、中国など世界各地で公演、とりわけニューヨーク・リンカーンセンターにおける招聘公演（5 日間 6 公演）は連日満員の盛況で批評家から極めて高い評価を得るなど大成功を収めた。また復曲・新作能に意欲的に取り組み現在の能楽界を牽引する。

芸術選奨文部大臣新人賞、フランス芸術文化勲章シュバリエ、芸術選奨文部科学大臣賞、第 33 回伝統文化ポーラ賞大賞、JXTG 音楽賞、紫綬褒章受章、日本芸術院賞など受賞（章）。

令和 5 年 3 月 日本芸術院会員就任。11 月 文化功労者認定顕彰される。

能楽宗家会会長、（一財）観世文庫理事長、（一社）観世会理事長、東京藝術大学客員教授、（一社）日本能楽会副会長、（公社）能楽協会顧問。

重要無形文化財総合認定保持者。日本芸術院会員。文化功労者。